

新燃岳における新たな火孔列の形成（速報）

新燃岳 2025 年噴火では、山頂火口の北東部に形成された火孔列での活発な噴火活動が続いていたが、7 月 4 日午前のドローン観測によって、火口の南東縁に新たな火孔列が形成されていることが確認された。

霧島山新燃岳では、2025 年 6 月 22 日に 7 年ぶりに噴火が発生し、現在までほぼ連続的に噴火が続いている（7 月 4 日現在）。7 月 3 日の噴火までは山頂火口の北東部に形成された火孔列において活発な噴火活動が続いていたが、7 月 4 日午前に産業技術総合研究所・株式会社 JDRONE によるドローン観測を実施したところ、これまでになかった火口の南東縁に新たな火孔列が形成されていることが確認された。図 1 には火孔列のおよその位置、図 2 にはドローン観測による熱赤外映像と可視画像を示す。画像の右上が新しく開いた火孔列であり、左上は前日まで活動していた火孔列である。新しい火孔列からの噴煙は灰色だが、前日までの火孔からのものは白色であった。なお、気象庁設置の御鉢火口南縁の監視カメラ映像でも噴出中心の場所が変わっていることがわかる（図 3）。今後も火孔が異なる位置に開く可能性も念頭に入れて、推移を注意深く把握し続ける必要がある。

本稿では以下のように用語を使い分けている：

- ・火口＝直径約 800m で火口内容岩が埋めている領域
- ・火孔＝噴煙が出ている局所的な噴出孔



図 1 写真判読により推定した新しい火孔列のおよその位置（赤丸）。同じく写真判読により推定した前日まで活動していた火孔列の位置も合わせて示す（青線）。基図に GoogleMap を使用。

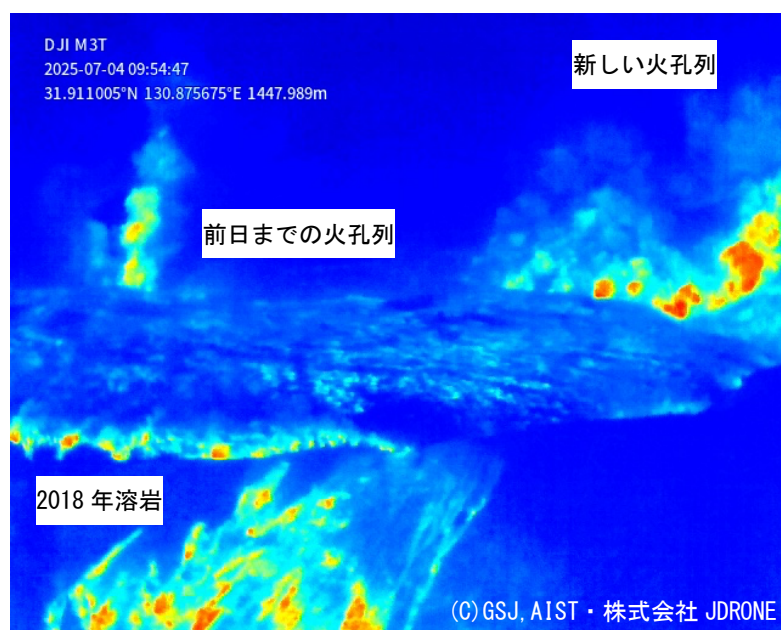


図2 ドローン観測による7月4日9時55分頃の新燃岳火口の様子。
上：熱赤外映像。下：可視画像。



図3 気象庁設置の御鉢火口南縁の監視カメラ映像。7月3日から4日にかけて噴出中心の位置が変わっている。上：7月3日6:00，下：7月4日7:20。